

まじよは、まい日へんゼルがふとったかどうか、
たしかめました。

まじよ

「ほれ、ゆびを出しな」

そういわれるたびに、
へんゼルは、
たべのこした
とりのほねを
つき出しました。

まじよ

「うくん…

まだまだ

やせているねえ」



まじよはほとんど目が見えません。

そのため、それがほねだとは気づかなかったのです。